

「クリーニングドクターの豆知識」その4

～人工皮革にご用心!～

ここ10年ほどで、人工皮革の衣類はフリースと並んで急速に拡がりました。特にジャケット・ジャンパーなどの上着によく使われています。服全体に使われている他にも、前立てやポケット口の縁取りなど部分的な使用もよくあります。お持ちの方もいらっしゃると思いますが、この生地には結構大きな問題があるのです。

●人工皮革とは？

本物の革に似せて人工的に作られた生地です。風を通さず雨もはじき、本革のような質感がありながら本革よりも安価というのが主なメリットです。ガーゼのような基になる布の表面に「ポリウレタン」という樹脂をコーティングして作られます。そしてこのポリウレタンというやつが曲者なのです。



●人工皮革(ポリウレタン)の問題点

一言で言うと「劣化する」です。時間の経過と共に生地の劣化が促進します。要するに耐久性がないのです。難しい説明をするよりも、ユニクロのポリウレタン製品についていた注意事項を見てもらいましょう。『ポリウレタン素材は、時間の経過と共に空気中の湿気や紫外線、熱や汚れなどにより、約3年で劣化(離剥・べたつき)します。空気中の水分により劣化しますので、新品のまま収納していても劣化を抑える事は出来ません。』・・・という事です。注意してもらいたいのは、約3年で劣化というのは製造日からであり、決して購入してから3年ではありません。今年買った製品は昨年製造されたものかもしれません。



●当店での取り扱い

まず、どの程度劣化が進行しているかは表面的には判断が難しい。劣化した品物をクリーニング処理するとひび割れなどが生じたりします。実際当店でも過去にそういう事例がありました。

ですので、当店でポリウレタン製品をお預かりする際は「仮に衣類に問題が生じてでも承していただく」というのが前提になります。アパレルメーカーの取り扱い表示では「水洗い×・ドライ○」という指示が多いのですが、これはメーカー側の不勉強です。ドライクリーニングをすると、その次は乾燥機にかけることになります。劣化した生地に乾燥の熱と回転力が加わると・・・簡単にひび割れたり剥がれたりします。当店では特殊水洗い⇒自然乾燥です。実際信頼できるアパレルメーカーは「水洗い○・ドライ×」の表示をつけています。



襟周りが離剥した例



●結論

つまりポリウレタンというのは、耐久性よりファッション性を重視した生地と言えます。これはアパレルメーカーが悪い・クリーニング業界が悪い・買った消費者が悪いということではありません。ただ「そういう特徴を持った生地」というだけです。そういうデメリットも理解した上で「購入の参考にしていただければ」と思って取り上げました。劣化したポリウレタンがどういう状態になるか・・・当店で実例を用意していますので興味のある方にはお見せします。